



NO. 15

平成23.10.1発行

「にじ」は男女でつくる社会への架け橋。  
一人ひとりが輝くまちづくりに向けて  
共に考え、行動してみませんか。

墨田区男女共同参画情報誌

4 ページ

特集

男女共同参画

子どもと考える

社会に向けて

自分らしく活躍できる

2 ページ 巻頭インタビュー

棋士

高橋 和さん

勝つだけでなく、  
悔しさ、嬉しさなど  
心の幅を広げられる  
ような将棋を教えたい



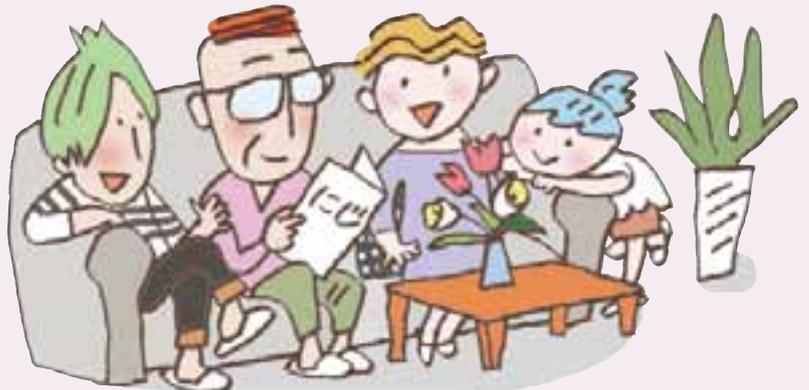
8 ページ インフォメーション

10 ページ 墨田さんちの  
男女共同参画物語

女性も能力を発揮して働こう！  
～さくら、住宅メーカーに就職の巻

12 ページ 私らしく輝いて

“人を鍛えて人をつくる”柔道で  
子どもに生きる力を育てたい  
中里 浩さん



◎自分らしい暮らしのできる  
社会とは

◎男女共同参画社会の実現が  
求められる背景

◎家庭から始める男女共同参画  
◎女性も能力を発揮して  
活躍できる社会へ

◎ワーク・ライフ・バランスで  
仕事も家庭も子育ても

# 高橋 和さん

●棋士

才能に恵まれていても、自分らしく開花させていくことは簡単なことではありません。6歳で将棋を始め、14歳でプロ棋士となり活躍していた高橋和さんが選んだのは、対局を退き、子どもたちに将棋の楽しさを伝える道でした。現在、5歳のお子さんの母親でもある高橋さんに、将棋から学んだこと、子育てや夫婦のパートナーシップのヒントなどについて伺いました。



## プロフィール◆

1976年神奈川県藤沢市生まれ。6歳から将棋を始め、1987年佐伯昌優八段門下で女流育成会に入会。14歳で当時最年少女流プロ棋士(女流2級)となる。2005年、対局から引退後、第1子を出産。将棋の普及イベントや女性誌への連載、講演活動など幅広く活躍。著書にボードゲーム絵本『ぴよんぴよんしようぎ』『スイスイはさみしようぎ』など。



## ●将棋を始めたきっかけや育った家庭環境についてお聞かせください。

ごく一般的な家庭に育ちました。まだ一家に一つ将棋盤があった時代で、父が兄に教えていたのを見て、「私も一緒にやる!」と始めたのがきっかけです。3歳年上の兄は、私と対戦して負けるとすぐに涙をこぼしていたのに対し、私は「もう1回」と、勝つまでやめなかったそうです。根っからの負けず嫌いで、そういう意味では将棋に向いていたのだと思います。

毎週末、近くの将棋道場に通い、アマチュアの有段者に教えてもらっていました。休日にはほぼ道場通い、夏休みも大会に出ていましたが、その頃の私にとって将棋は特別なものではなく、小学校に通うのと同様、生活の一部になっていたと思います。

## ●プロをめざそうと思ったのはいつ頃からですか。また、プロ棋士として苦労された点はどんなことでしょうか。

我が家では毎晩8時になると母がテレビをパチッと消して、9時まで父と将棋盤を囲むのが日課でした。父はやると決めたらやり通す主義で、私も観たいテレビがあってもいざ盤に向かうと夢中になってやっていました。両親はそんな私の資質を見抜き、夢中になれるものがあるなら伸ばしてあげたいとサポートしてくれたのだと思います。

6年生のとき、プロになることを薦められ、女流育成会に入会しました。とはいっても、当時はまだプロというものがよくわからず、強くなりたい一心で指していました。4年目にプロとなり初めて対局料をいただいたときに、これは仕事なんだと自覚しました。個人的なものだった勝敗は、周囲の期

待を背負ったものとなり、徐々にプレッシャーを感じるようになりました。

将棋の世界は勝つか負けるか。どんなにいい将棋を指しても、最後に逆転されたら負けなのです。高校時代は勝負の世界にやりがいを感じながらも、同時に苦しさも感じていました。一期、自立神経失調症になり、対局の前になると吐いたりしていたことも。ですが負けず嫌いの私は、逃げるという選択はせず、トイレで「負けるもんか!」と叫び、対局にのぞんでいました。

## ●引退を決意されたのはどんな理由からでしょうか。

当時は対局をこなす一方、子どもに将棋を教える仕事もしていました。あるとき、女の子が強い相手に勝ったので「よくできたね」と褒めたら、その子の目がキラキラと輝いていたのです。私はプロ棋士でいるより、子ども

じ、子どもたちのオンリーワンの先生になろうと、引退を決意したのです。でもそれは、タイトルをめざし一生懸命戦ってきたからこそわかったことだと思っています。

## ●子育てで大切にされていることはありますか。

私が将棋という勝負の世界から学んだことは、自分で決着をつけること。この経験は自立していくうえでとても役立ちました。ですから、息子にはできるだけ自分で判断し、解決させる経験をさせるようにしています。息子が喧嘩で泣いていても私は仲裁しません。相手に謝ったり、自分の気持ちを納めたり、自分で解決するまで見守るようにしています。身の回りのことなども手を貸したほうが早くても、自分でやらせます。とても忍耐のいることですが、大人の都合のいい子育てはしたくないと思っています。

# 勝つだけでなく、悔しさ、嬉しさなど 心の幅を広げられるような将棋を教えたい



●男女共同参画の視点から家庭で実践していることがあればお聞かせください。

子どもにとって大切なのは家庭が平和であり安心できる場所であることだと思います。それには父親と母親が共に子育てにかかわり、お互いを認めあっている姿を自然な形で子どもに見せてあげることではないでしょうか。

作家という仕事柄、夫が家で仕事をしていることもあり、子育てや家事に自然な形がかかわってくれています。夫は食べたい物があれば自分で台所に立って作りますし、私が仕事で遅くなる時も、息子の面倒をよくみてくれるので、私も安心して仕事を続けることができます。

●今後の抱負についてお聞かせください。

あるお母さんから「勝ったとき、相手にわからないように机の下で小さく手をぎゅっと握っていた息子をみて成長を感じました」というメールをいただいたときは嬉しかったですね。それができたのは悔しかったですね。それるからで、勝つただけでは学べないことです。こうした経験はコンピュータゲームでは学べないことだと思います。

将棋の普及活動を通して、悔しかったこと、うれしかったことなど心の幅を広げられるような指導をしていきたいと思っています。

# 特集

自分らしく活躍できる  
社会に向けて

## 子どもと考える 男女共同参画

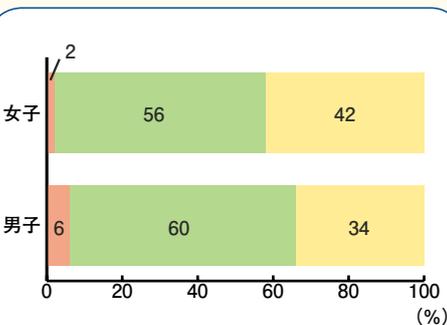
誰もが自分らしく活躍できる  
男女共同参画社会を実現するには  
次世代を担う子どもたちにも  
自然な形で伝えていくことが大切です。  
男女共同参画とはどんなことなのか？  
自分の生活とどんなかわりがあるのか？  
子どもと共に考え、実践するための  
ヒントについて探ってみました。



男女共同参画について子どもたちはどんな捉え方をしているのでしょうか。区内の中学生に回答してもらったアンケートを紹介します。

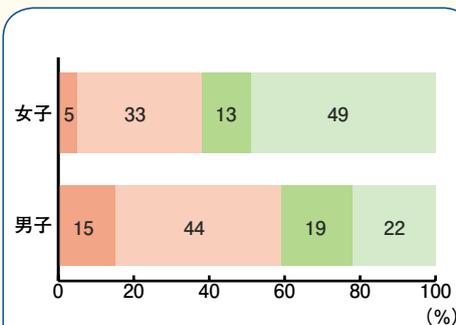
(平成 23 年 5 月実施 対象/中学 3 年生  
回答/男子 54 人、女子 45 人)

Q3 女性が仕事をする事についてどう  
思いますか？



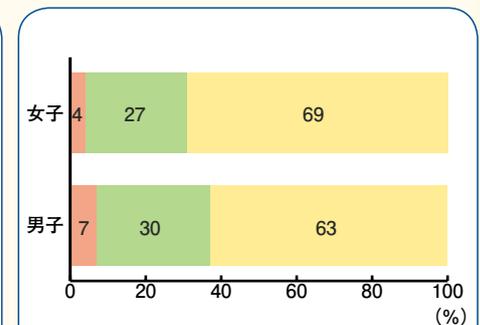
■ 仕事を持たないほうが良い  
■ 子どもができるまで仕事するのが良い  
■ 子どもを持っても仕事を続けるのが良い

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に  
ついてどう思いますか？



■ そう思う  
■ どちらかと言えばそう思う  
■ どちらかと言えばそう思わない  
■ そう思わない

Q1 「男女共同参画」という言葉や内容を  
知っていますか？



■ 言葉も内容も知っている  
■ 言葉は知っているが、内容はよく知らない  
■ 言葉も内容も知らない

自分らしく暮らしたい社会とは

男女共同参画社会という言葉は知っているけれど、内容は難しそうでよくわからないという人も多いのではないだろうか。

平成11年に施行された男女共同参画社会基本法の定義には「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき」とあります。

わかりやすくいえば、男女共同参画社会とは、男女が対等なパートナーとして共に支え合い、女性も男性も活躍できる社会。つまり、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる社会です。

男女共同参画社会の実現が求められる背景

誰もが自分らしく暮らしたい社会の実現は多くの人の願いです。墨田区では「女性と男性の共同参画基本条例」を制定し様々な取組を進めています。今なお社会の様々な場面で男女平等であるとはいえない状況がみられます。墨田区男女共同参画に関する意識調査（平成19年）では、「職場」「家庭」「地域社会」「しきたり・慣習」などで「男性のほうが優遇されている」という答えが多くなっています。

男女共同参画社会の実現をはばむ要因の一つと

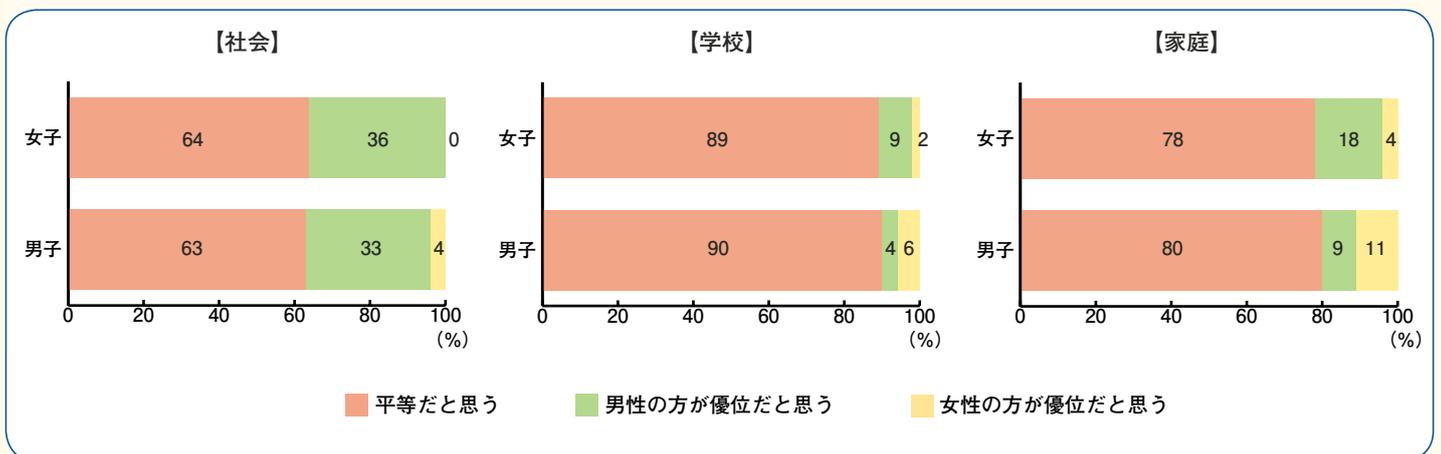


されているのが、長年、社会の中で形成されてきた男女の役割を固定的にとらえる意識や慣習です。

「男は仕事、女は家庭」に代表されるこの考え方は、高度経済成長を遂げていた時代には、一般的なスタイルとして広く受け入れられていました。しかし、その一方で、女性が能力を發揮して働くのが困難だったり、男性が子育てにかかわる時間を持つてなったり、一人ひとりの生き方を狭める要因となりました。社会の構造が大きく変わり、価値観の多様化とともに、近年、男女の固定的役割分担意識を否定する人が半数を超えています（内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」が、まだまだ根強く残っているのが現状です。

また、少子高齢社会を迎えた日本では、労働をはじめ育児や介護などでも男女が共に参画し支え合っていかなければなりません。未来を担う子どもたちがいきいきと自分らしい人生を歩んでいくためにも、男女共同参画社会の実現が求められています。

Q4 「社会」「学校」「家庭」で男女の地位は平等だと思いますか？



## 家庭から始める男女共同参画

では、男女共同参画社会の実現に向けて私たちはどんなことに取り組んでいったらいいのか、身近な家事から考えていきましょう。

たかが家事と思いますが、健康で快適な生活を送るためには家事は欠かせない仕事であり、本来、家族みんなで分担してやるべきものです。

しかし、共働き家庭が半数を超えた今も、「家事は女性の仕事」と思い込んでいる人は少なくありません。そのため夫や子どもがやらなくても仕方がない……とあきらめている女性もいるのではないのでしょうか。



最近では少子化で兄弟が少ないこと、また子どもは習い事や塾通いで忙しいこともあり、家族の一員として家事をする子どもが減ってきているという指摘があります。「家事は母親の仕事」という環境で育つと、それが当たり前前のスタイルとして受け継がれ、固定的な性別役割分担意識の解消につながりません。洗濯、ゴミ出し、風呂掃除など、家族それぞれができることから始めてみましょう。

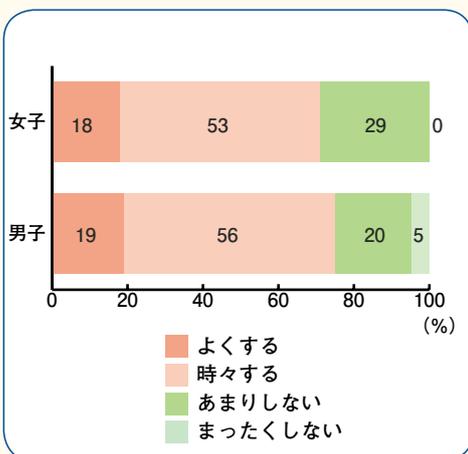
## 女性も能力を発揮して活躍できる社会へ

女性の社会進出が進み、働き続ける女性も年々増えてきました。しかしながら、職場では様々な男女差がみられます。

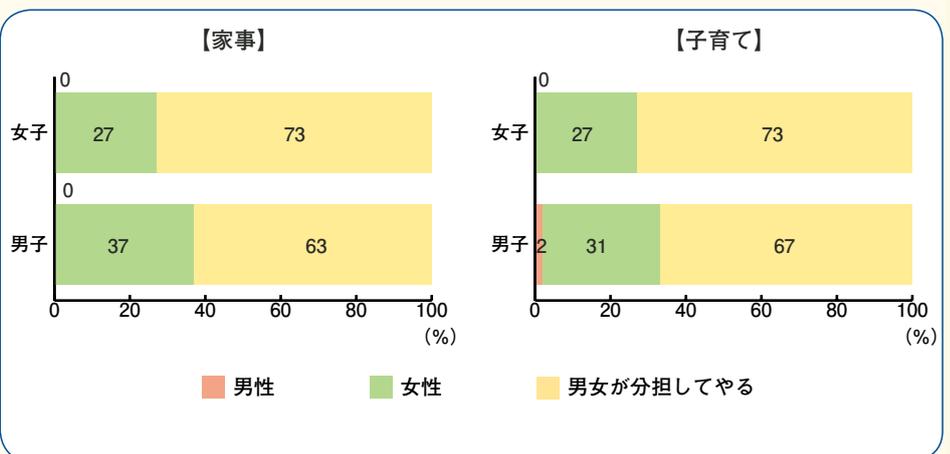
平成22年の男性一般労働者の1時間あたりの所定内給料を100とした場合、女性一般労働者は70・6、女性短時間労働者は49・5と、大きな格差がみられます（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」）。管理職に占める女性の割合も依然として低く、11・10%にとどまっています（総務省「労働力調査」）。

格差が生じる要因の一つに、子育てのために女性が仕事を辞めたり、キャリアを中断してしまうことがあげられます。女性の働き方をみると、子育て期にあたる30代以降は正社員の割合が下がり、子育てが一段落する40代以降はパートやアルバイトなどの非正規雇用の割合が増え、正社員を上回っています。非正規雇用は、仕事と家庭の両立がしやすい反面、賃金が低く身分も不安定で、

Q6 家でお手伝いをしますか？



Q5 「家事（料理・掃除・洗濯）」や「子育て」は男女どちらがやるのが良いと思いますか？



キャリアアップも図れません。

男女が共にいきいきと働ける職場にしていけるには、仕事と家庭の両立が図れること、女性が活躍できる機会や環境をつくること、また女性自身も積極的にチャレンジする姿勢が大切です。

男女共同参画社会は、女性も男性も自分の力を発揮することのできる社会です。ときには父親の仕事、母親の仕事について話す機会をつくり、子どもたちに働くことの意義や喜びについて伝えていきたいものです。

### ワーク・ライフ・バランスで 仕事も家庭も子育ても

これまで多くの職場では、男性は仕事を優先して長時間働くことが求められてきました。そのため家事を分担したり、子育てにかかわったり、地域活動に参加したりなど生活を楽しむ時間が持てませんでした。妻から「家事を手伝って」「子育てにもかかわって」と言われるたびに、「できるならそうしたい」と感じていた男性も多かったのではないのでしょうか。

振り返ってみれば、これまでの社会には仕事中心の生活か、家庭中心の生活かの選択肢しかありませんでした。「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担のもと、経済大国になり、暮らしても豊かになりました。しかし、その一方で長時間労働による男性の過労死やうつ病の増加、女性に偏る育児負担、またDVや児童虐待など様々な問題も表面化しています。

こうしたなか若い世代を中心に、仕事も家庭も



男女で支え合あっていこう、仕事だけでなく子育てや余暇、趣味の時間など個人の生活も楽しめるバランスのとれた働き方がしたいという声が聞かれるようになってきました。今、国や企業ではこうした社会を実現すべく、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）のとれた働き方をめざす取組が進められています。

男女共同参画社会は一人ひとりが自分の生き方を選べる社会です。言い換えればそれは、どんな生き方がしたいのかを問われる社会です。

今、子どもたちはどんな希望を持っているでしょうか。できるなら得意なことを活かして社会で活躍してほしいものです。

子どもは親の背中を見て育ちます。大切なのは、私たち大人が自分らしい生き方を実践していくこと。職場や家庭、地域社会など様々な分野にかかわり、活躍している姿を見せてあげることです。この特集をきっかけに、それぞれの生き方について親子で話し合ってみませんか。

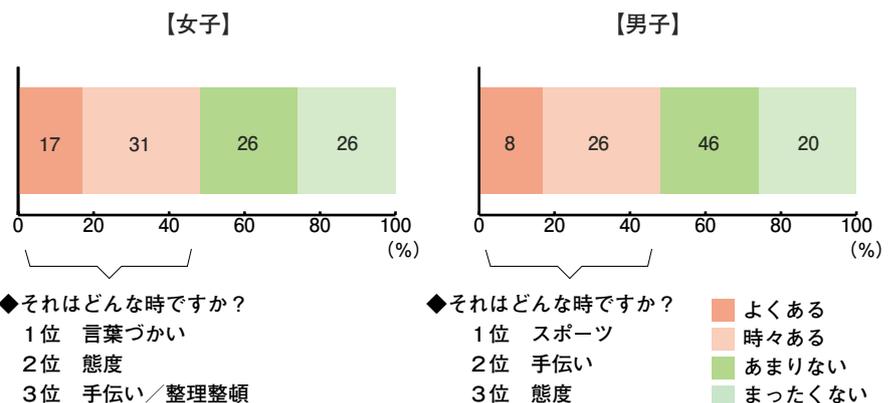
#### Q8 将来、どんな職業に就きたいですか？

【男子】	(人)
1位 まだ決まっていない	14
2位 スポーツ関係	13
3位 スポーツ選手	9
会社員	9
5位 教師	4
公務員	4

【女子】	(人)
1位 保育士	12
2位 まだ決まっていない	10
3位 調理師・パティシエ	6
4位 教師	5
5位 会社員	4

#### Q7 親や大人から「女だから〇〇しなさい」「男だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか？



## 第3次男女共同参画基本計画の概要

国では、男女共同参画社会基本法に基づく基本計画として、平成12年、平成17年と2次にわたり計画が策定され、平成22年12月17日に第3次男女共同参画基本計画が新たに策定されました。

新しく追加された主な項目の特徴を紹介します。

### 1 経済社会情勢の変化等に対応して、重点分野を新設

- ◆男性、子どもにとっての男女共同参画
- ◆貧困など生活上の困難に直面する男女への支援
- ◆高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備
- ◆科学技術・学術分野における男女共同参画
- ◆地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進

### 2 実効性のあるアクション・プランとするためそれぞれの重点分野に「成果目標」を設定

- ◆第2次基本計画の42項目の2倍近い82項目（延べ109項目）の「成果目標」を設定

〔「成果目標」とは、それぞれの重点分野に掲げる具体的施策を総合的に実施することによって、政府全体で達成を目指す水準〕

### 3 2020年に指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標に向けた取組を推進

- ◆中間目標の設定や多様なポジティブ・アクション（※）を推進
- ◆政治、司法、経済分野など、これまで取り上げてこなかった分野や必ずしも積極的ではなかった分野についても、国は積極的に働きかけ

### 4 女性の活躍による経済社会の活性化や「M字カーブ問題」の解消も強調

- ◆女性の継続就業支援や再就職支援等の施策の実施

詳しくは、内閣府男女共同参画局ホームページをご覧ください。

<http://www.gender.go.jp/kihon-keikaku/3rd/index.html>

### ※ ポジティブ・アクションとは？

固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から

- ▶営業職に女性はほとんどいない
- ▶課長以上の管理職は男性が大半を占めている

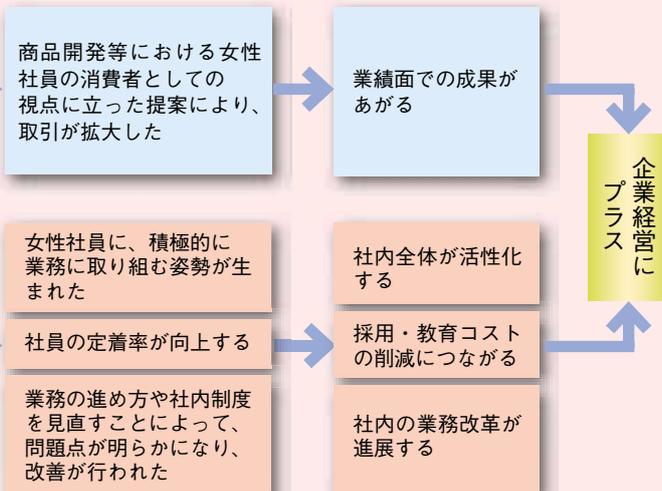
等の差が男女労働者の間に生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組のことです。

ポジティブ・アクションに取り組むことにより個々の労働者の能力発揮を促進するだけでなく企業にも様々なメリットがあります。

直接的な効果の例

ポジティブ・アクションに取り組む

間接的な効果の例



### 改正次世代育成支援対策推進法が施行されました

次代の社会を担うすべての子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を目的として制定されたのが「次世代育成支援対策推進法」です。少子化社会が急速に進むなか、平成20年11月に改正され、本年4月1日から施行されました。この改正により、従業員が仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境等の整備を進めるための行動計画（一般事業主行動計画）の策定・届出、公表・周知の義務が、従業員301人以上から101人以上の企業に拡大されました。

#### 《くるみマークの認定》

行動計画を策定し、その行動計画に定めた目標を達成するなどの一定の要件を満たした場合、申請を行うことにより、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣（都道府県労働局長へ委任）の認定を受けることができます。認定を受けた事業主は、次世代認定マーク（愛称：くるみん）を、商品、広告、求人広告などにつけ、子育てサポート企業であることをアピールすることができます。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。



<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/jisedai/>



# 女性も能力を発揮して働こう！

## さくら、住宅メーカーに就職の巻

墨田さん一家は会社員のお父さん、パートで働くお母さん、新社会人のさくら、高校生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。

大学で建築士をめざし学んでいたさくら。就職難を乗り越え、念願の住宅メーカーに就職、4月から技術職として働いています。ただいま同期の女性たちと昼食中。さて、どんな会話が聞かれるのでしょうか。



おじいちゃん



おばあちゃん



お父さん



お母さん



太郎



さくら

# 墨田さんちの 男女共同 参画物語

さんがく  
ものがたり  
だんじょ  
きょうびつ

さくら 就職して半年が経ったけれど、どんな仕事には慣れた？

Aさん だいぶ慣れたけれど、まだまだ分からないことだらけ……。

さくら そうね。学校で勉強してきたつもりだけど、実践となると戸惑うことばかりね。

Bさん そうなの？ さくらさん、積極的だし、いきいき働いているように見えるけれど……。

さくら やりたかった設計の仕事に配置されたんだから、もちろんはりきってはいるんだけどね。

Cさん 今年の女子の就職も厳しかったからね。私もあこがれの会社に入れるとは思ってなかった。

さくら みんなはどんな理由でこの会社を選んだの？

Cさん 私は営業が希望だったから、会社説明会で女性の営業職が活躍しているって聞いて、こころなやれると思ったわ。

Aさん 私はインターシップがきっかけね。1週間のプログラムに参加したんだけど、設計や施工現場、展示場などの業務を一通り体験してみて、建設の現場で働きたいと思ったの。

さくら Bさんはどうなの？ 最近、元氣なさそうだけれど……。

Bさん 私はみんなと違って一般職を希望して入ったんだけど、正直、後悔している。

Cさん まだ半年じゃない。

さくら 大丈夫。一般職から総合職への配置転換ができる制度もあるんだし、落ち込まないで。それに、一般職にも育児休業を取って復帰して

### 女子の就職

今春卒業した大学生の就職率は女子90・9%、男子91・1%で、文系90・5%、理系93・1%で、全体では就職氷河期と呼ばれた2000年を下回り、過去最低を記録しました。（厚生労働省「平成22年度大学等卒業者の就職状況調査」）

### 女性の営業職

かつて営業職といえば、男性の仕事というイメージが強かったものです。しかし、男女雇用機会均等法が施行されて20年以上が経ち、女性もいろいろな分野で活躍できる社会へと変わってきました。特に住宅メーカー、百貨店、服飾メーカーなど女性の視点が求められる分野で増えています。

### インターシップ

主に企業などで学生が一定の期間、研修生として働き、就業体験を行う制度です。アメリカなどで普及していた制度ですが、近年、日本でも大手を中心に採り入れる企業が増えています。自分のやりたい仕事を事前に経験することでより自分にあった企業、職業が選べます。

### 配置転換

日本の企業で定着している人事制度の一つです。配置転換の本来の目的は人材育成や仕事のマンネリを防ぐために行われるものですが、本人から申し出ることも、また断ることもできます。



エコ住宅への関心が  
高いんだけど、さくらさん、  
いいアイデアない？

施工現場でも結構、  
女性が活躍してるのよ

みんなはりきってるし、  
私もがんばってみよう  
かな

みんな、仕事の調子はどう？  
私はいま、3世帯住宅に  
取り組んでいるわ

がんばっている先輩がいるじゃない。

**Cさん** そうそう。短時間勤務制度を利用したりして、子どもを産んでからも働き続けている人が多いんじゃない？

**Bさん** そうね。これからよね。先輩にも相談に乗ってもらいながらじっくり考えるわ。

**Aさん** ところで、さくらさんのチームはいまどんなプランに取り組んでいるの？

**さくら** バリアフリーの3世帯住宅。私の家が3世代同居なので、経験を活かした意見を出しているところ。

**Cさん** 営業的にはいま、エコ住宅への関心が高いわね。ぜひ、さくらさんにも画期的なプランを考えてほしいな。

**さくら** 節電対策を取り入れたリフォームプランを考えてみようかな。

**Cさん** この会社のいいところは、新人の意見も取り入れてくれる点ね。

**Bさん** そうね。私の部署でも、新人も会議に出席して意見をいう機会があるし……。

**Cさん** 女性の活用にも力を入れてるしね。

**さくら** そうそう。先輩は今度、**女性のリーダー育成研修**に参加するみたい。いずれプロジェクトを率いて活躍するんだろうなあ。あこがれるなあ……。

**Aさん** さくらさんもいずれチャレンジするんでしょう。

**さくら** もちろん、がんばりたいわ。

**Bさん** 私も元気が出てきた。せっかく女性が働きやすい会社に就職したんだから、仕事が向いてないと思う前にいろいろ挑戦してみるわ！

これ何の数字？

94位

## 日本のGGI (ジェンダー・ギャップ指数) の国際順位

GGI(ジェンダー・ギャップ指数)とは、教育、健康、政治の各分野のデータからその国の男女格差を測るもので、スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が独自に算定した指数です。0が完全不平等、1が完全平等を表しています。

2010年の日本のGGIは0.652で、134か国中94位(2009年は101位)でした。

分野ごとの順位からわかるように、政治、経済における格差が大きく、総合順位が低い結果となっています。

◆GGI(2010年)の順位		
順位	国名	GGI値
1位	アイスランド	0.850
2位	ノルウェー	0.840
3位	フィンランド	0.826
…		
19位	アメリカ	0.741
…		
94位	日本	0.652

◆分野ごとの順位(日本)	
経済	101位
政治	101位
教育	82位
健康	1位

### 女性のリーダー育成研修

職場で活躍する女性が増えたとはいえ、管理職などの地位に占める女性の割合は1割程度です(総務省「平成22年労働力調査」)。国ではあらゆる分野において2020年までに指導的地位における女性の割合を30%程度とする目標を設定し、ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)を推進しています。女性のリーダー育成研修もその一つです。

